

科学する実践者になる

ソーシャルワーカー

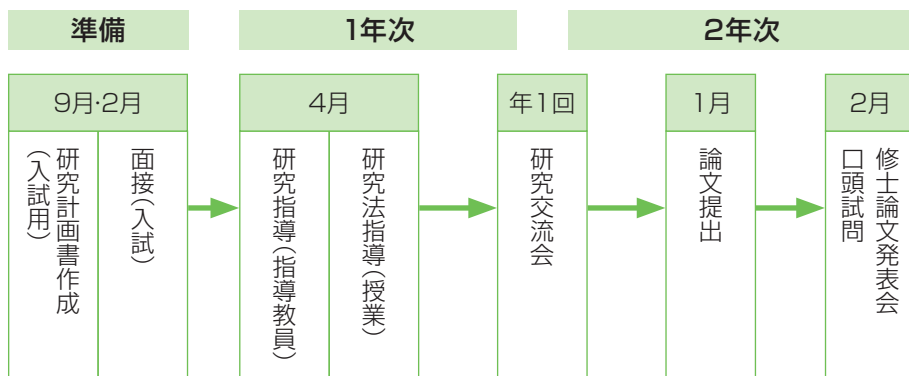
すぐれた実践者は、自らの実践をわかりやすく説明することができます。

そのため、本専攻には、ソーシャルワークの理論だけではなく、いくつかの具体的なアプローチや、自らの感性をブラッシュアップするのに役立つ人間学の授業があります。

これらを学ぶことで、現場で体験したことを理論に照らして意味づけたり、ソーシャルワークの価値や理論を自らの感性で問い返し、再構築していくことが可能になります。

また、調査研究法を学び、研究者としての基礎を身につけることもできます。

論文作成の流れ



修了要件

臨床福祉学専攻 博士前期課程の修了には下記選択必修の要件を満たし、合計30単位以上の履修が必要です。

臨床福祉学専攻

研究基礎科目群から必修5科目10単位、研究演習科目群から必修の臨床福祉学研究演習Ⅰ・Ⅱ 8単位の他、6科目12単位以上を選択必修とし、合計30単位以上を修得。

また、必要な指導を受けたいうえで、修士論文の審査および最終試験に合格する必要があります。

特色ある科目

福祉人間学特論Ⅱ

福祉人間学特論Ⅱは現在、秋学期の半期に開講の授業です。その特色は、3人の教授陣によるオムニバス形式であるところです。3人の教員が5コマずつ担当し、社会福祉やソーシャルワークの学びを深めていくうえで不可欠なベースになる考えや考え方(人間学や社会福祉に関する哲学など)をそれぞれの専門性を活かしながら大学院生とともに授業を展開します。

小笠原(慶)は、社会福祉が社会事業と呼ばれていた頃に大阪で活躍した社会事業家を取り上げ、その人物について考察します。山口は、福祉国家と言われ、高いレベルの社会福祉を可能にしているデンマークについてその国や思想、哲学について考えます。柿木は「障害観の変遷と人間の尊厳」というテーマについて、視聴覚教材や事例を用いて考えます。

就職に関する情報

大学院修了者 業種別進路決定状況 (2023年度)

臨床福祉学専攻 [博士前期課程] (令和元年度～令和5年度全修了生就職先比率)

